場所　岩手県岩手郡葛巻町

面積　1833ha

活動目的　森林の有する多面的機能の維持向上を図り、生態系サービスを充実化させていく。



サイト概要　社業である紙パルプ製造用の原木自給化を主目的として1937年に購入した社有林。主にアカマツを植栽してきたが原料供給の役割は終わり、現在は多様な生態系サービスを提供しうる森林と位置付けて管理している。購入目的の経緯から人工林比率が約90%と高くなっているが、アカマツ人工林の多くでは広葉樹が侵入し針広混交林化しており、実際には多様な樹種で構成され、そこに多種の動植物が生息生育していることが確認されている。尚、本サイトのほぼ全てが水源かん養保安林であり、一部は鳥獣保護区（森林鳥獣保護区）にも指定されている。



土地利用の変遷

元々は天然広葉樹を中心とした森林であったが昭和の初め頃より人工造林が始まったと推察される。当社購入後に人工林化が更に進んだが、現在は人工林を伐採した跡地に限り植栽による再造林を行うこととし、人工造林地を更に増やす計画はない。植栽樹種としては適地適木と将来の需要見込の観点からカラマツを選択している。その他の天然林や広葉樹の侵入により針広混交林化が進んでいる人工林については手を加えず自然の力を借りながら天然林への遷移を目指している。



サイト周辺の環境

基本的に本サイトと同様の森林が広がっているが、サイトの中央を流れる外川川両岸の平坦地には畑や牧野（休耕地を含む）もある。

アピールポイント

FSC森林認証を取得するとともに森林経営計画を策定して葛巻町から認定を受けている。これら森林認証や森林経営計画の基準や要件に適合した管理活動を継続実施することで、森林が有する多面的機能の維持向上に努めている。また、地域社会との良好な関係維持にも留意しており、地域住民の信仰対象物を祀る場所や景観に優れた場所を取り囲む林分については関係者との協議により保護林として保全している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

カラマツ人工林では収入間伐を計画的に実施して地元の製材所等に供給している。サイト内には山菜やキノコが自生する場所が多くあり、地域住民の採取を目的した入林を認めている。また、近隣住民が信仰する「山の神」の祠を祀る森や滝と調和して景観に優れた森は、地域住民の精神的充足や憩いを与えている。更に、サイトのほとんどは水源かん養保安林であり、水源、水量調整面において地域社会に貢献している。

【主な植生】

①人工アカマツ林　②人工カラマツ林　③天然広葉樹林　④天然針葉樹林　⑤天然広葉樹とアカマツによる針広混交林

【確認された主な動植物など】

【植物】アカマツ（*Pinus densiflora*）、カラマツ（*Larix kaempferi*）、コナラ（*Quercus serrata*）、イタヤカエデ（*Acer mono*）、ホオノキ（*Magnoila hypoleuca*）、シラカバ（*Betula platyphylla*）、クマイザサ（*Sasa veitchii*）、ヤマソテツ（*Plagiogyria matsumureana*）、ウルイ（*Hosta siebodiana*）、ゼンマイ（*Osmunba japonica*）
【菌類】ホテイシメジ（*Clitocybe clavipes*）、キヒラタケ（*Phyllotopsis nidulans*）
【哺乳類】ニホンジカ（*Cervus nippon*）、ツキノワグマ（Ursus thibetanus）、ニホンイノシシ（*Sus scrofa leucomystax*）、ホンドキツネ（*Vulpes vulpes japonica*）
【両生類】ニホンアマガエル（*Dryohytes japonicus*）
【爬虫類】カナヘビ（*Takydromus tachydromoides*）、シマヘビ（*Elphe quadrivirgata*）、マムシ（*Gloydius blomhoffii*）
【鳥類】ウグイス（*Horornis diphone*）、シジュウカラ（*Parus minor*）、キジ（*Phasianus versicolor*）
【昆虫類】ヒグラシ（*Tanna japonensis*）、オニヤンマ（*Anoto gaster sieboldii*）、シオカラトンボ（*Orthetrum albistyrum*）、オオスズメバチ（*Vespa mandarinia japonica*）、ニホンミツバチ（*Apis cerana japonica*）



写真の説明：間伐を行った人工カラマツ林



写真の説明：アカマツと広葉樹の針広混交林

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
〈活動目的〉 森林の有する多面的機能の維持向上を図り、生態系サービスの充実化につなげる。 〈活動内容〉 ①森林経営計画（葛巻町認定番号5-1，5-2）に基づく活動 間伐、主伐（収穫伐採）、主伐跡地へ再造林、再造林地の下刈実施。当社担当者及び委託巡視員（地域居住者）による年間を通じた巡視活動で自然災害や人的災害の予防、早期発見に努める。 ②FSCの原則と基準及び国内森林管理規格に従った管理計画に基づく活動 間伐、主伐等の作業に際しては、事前に環境影響評価を実施して生態系への悪影響を特定し、悪影響の発生回避又は低減対策を講じる。高い保護価値を含む森林の特定（本サイト内では現在３箇所を特定）とその保全活動。森林資源及び生態系のモニタリングの実施（５年間で本サイトを一巡）。	**【モニタリング対象】** ①森林資源（立木蓄積） ②林内生態系（植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類） ③高い保護価値を含む森林の保全状況 **【モニタリング場所】** 本サイト全域 **【モニタリング手法】** モニタリング対象①及び②については林内踏査による目視、目測を原則とする。対象③については現場訪問による目視の他、写真を活用した経年変化の有無確認や利害関係者へのヒアリングを行う。 **【モニタリングの実施時期及び頻度】** モニタリング対象①及び②については5年間でサイトを一巡する頻度（毎年、積雪期以外で随時）で実施。対象③については毎年1回（春）に実施。 **【モニタリング実施体制】** 次の二通りで行う。 ・当社担当者による単独実施 ・委託巡視員及び地元の林業事業体の協力を得て実施